

■第 4 回氷見市景観審議会のご意見とその対応

<第 4 回 氷見市景観審議会>

○景観まちづくりウィーク（実証実験）について

ご意見、ご指摘	対応
<p>○氷見高校生のベンチプロジェクトはとても良いと思う。今回設置された以外のバス停やシンボルロード全体に拡げていけるとよい。(海下委員)</p> <p>○この取組みの成果をどうまちづくりに落とし込んでいくか。沿道には空き家が多い。空き家を使って、どのような機能があれば市民や観光客が喜ぶかを想定した上で募集するなど、市が主体的に取り組む方向は必要ではないか。(岩倉委員)</p> <p>○定期的にやってみたいことを公募すれば、新しいアイデアが生まれる可能性があるのでは、継続することが大切である。継続することで窓口が常にあるということの周知にもなり、公募を検討する動きにもつながるのでは。(川合委員)</p> <p>○実証実験には多くの方がボランティア的に関わっていただいたと思うが、まちづくり活動は、ボランティアだけに任せていいのかということも永遠のテーマである。参加者の満足度やモチベーションを高める仕組み（参加すると市の施設が無料で使えるカードがもらえる、ユニフォームをつくるなど）をいろいろな角度から検討して欲しい。(武山会長)</p>	<p>・令和 7 年度以降、活動づくりの実践を継続しながら、支援制度の具体化を検討します。「資料 1 今後の進め方について」を参照)</p>

○国道 415 号沿道地区 景観まちづくりプランについて

項目	ご意見、ご指摘	対応
区域設定について	○区域設定の根拠を市民にも説明できるよう明確にしておきたい。	・区域設定は、国道 415 号の路線型用途地域（氷見市いきいき元気館付近の近隣商業地域）の指定状況を踏まえ、道路境界より概ね 40m の区域としています。「参考資料 2 重点地区の区域の設定について」を参照)
全体について	○ハード、ソフト両面から取り組んでいくという姿勢は素晴らしい。他の自治体でもなかなかできていないことであると思う。住民とも上手くコミュニケーションを取りながら進めて欲しい。	

	<p>○資料のボリュームが多く、もう少し簡略に一般の方にも分かるような資料を作っていたらいいと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プラン概要版を作成します。取組みのガイドブックのような冊子について、令和7年度以降に検討します。（「資料3 景観まちづくりプランについて」を参照）
	<p>○イメージが付きにくいのが正直な印象。プロゴルファー猿ポケットパーク前のまち並みは電線類もすっきりとしていて、とても素敵である。このような良いものをどんどんアピールしていくような取組みになるとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プラン第1章に景観まちづくりを通して実現したい将来の姿を示します。（「資料3 景観まちづくりプランについて」を参照）
<p>建築物等による 景観づくり</p>	<p>○届出制度や景観形成基準に関して、色彩など建築確認申請にはない制約を受けることになるので、それを手助けする補助や支援がないと、まち並みを形成していくことは難しい。</p> <p>○黒瓦を守っていくことや来街者に見ていただくことも重要だとは思いますが、できてしまったものを変更するのはお金もかかるため、エリアを決めて、新規の建築確認申請のタイミングで指導・条件付けなどをしなければ揃っていかないのではないか。</p> <p>○金属板葺きと同等程度の負担で黒瓦にできるなどの支援があれば普及するのでは。黒瓦に限らずに氷見杉を使うことに対する補助なども。また、まちづくりは人づくりの側面がある。もう少し仕掛ける姿勢を持つのであれば、文化的なものを守るために職人を守る取組みもある。国道415号沿道の場合には、沿道の花やみどり、ベンチなどのファニチャーづくりなど、行政側で学べる場を立ち上げ、人を育てることが継続性につながると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度以降、支援制度の具体化を検討します。（「資料1 今後の進め方について」を参照）。 ・プラン6章に、支援のイメージを掲載しています。（「資料3 景観まちづくりプランについて」を参照）

<第6回 景観形成重点地区指定検討委員会>

※2024年5月22日、以下の議事について、ご意見をいただいた。

- ・今後の進め方について
- ・景観まちづくりウィーク（実証実験）について
- ・国道415号沿道地区 景観まちづくりプランについて

■主なご意見

○今後の進め方について

- ・令和6年度は災害復旧に注力することだが、当然景観と復旧は少なからずリンクしている。文化会館も駐車場は応急措置状態である。国道415号の復旧工事の見込み、スケジュールを教えてください。
⇒現在災害査定を受けているところである。効率的に復旧事業にあたるためにも地震工学等の学識の意見を受けながら工法を決定する必要がある、明確なスケジュールを示しにくい状況である。
- ・景観まちづくりの委員会なので復旧事業に対してデザインコントロールできることが望ましい。復旧工事が先に走った場合に景観まちづくりとしての観点はどうなるのか。
⇒富山県公共事業の景観づくり指針に準じた整備となることは間違いないが、本地区としてデザインの指定はしていない。なお、氷見土木事務所との調整の中では、復旧を優先させる観点から、国道415号歩道部のインターロッキングは同系色のカラー舗装になる見込みである。
- ・議会への説明のそのタイミングはいつ頃を想定しているのか。
⇒令和4年度からの検討を進める中で、予算要求時に議会への説明は行っている。今後、住民説明会やパブリックコメントを実施することと合わせて、都市計画審議会にも諮っていくことになる。それらのタイミングも考慮しながら議会へ説明していきたい。
- ・芸術文化館としては、震災復旧の色合いも含めてより積極的に市民活動やワークショップなど人が集う活動をしていきたいと考えている。

○景観まちづくりウィークについて

- ・景観まちづくりウィークで市民や地域の方の参加や理解が得られ、機運が高まっているので、震災復旧・復興のため活動休止する中でもニュースレターの発信などできることを探し、令和7年度以降の取組に上手くつなげていきたいし、我々や周りの方々もサポートできればと感じている。
- ・予算が付かないので活動ができないというのは寂しい。何か良いやり方がないか。
⇒景観まちづくりの予算が無い中でも、景観まちづくりに寄与する取組みを繋いでいけないかと感じた。景観まちづくりの情報発信、氷見高校、他課との連携など何かとつなかりを探し、工夫して乗り越えていけるとよい。
- ・せっかく盛り上がった機運を切らずに何とか続けることを考えるべき。芸術文化館のイベントにこれまで関わった人にも声掛けして、発展的な活動をやってもらうことも考えられるのではないか。

○景観まちづくりプランについて

【全体について】

- ・対象区域の被災状況を見ると本計画案を大幅に見直しや議論しなければならない状況ではないように感じており、これまで通りの基本的なスタンスでまとめていくのがよいのではないか。一方で、補修・改修において、瓦ではなく軽い銅板等の他素材とする、しっくい外壁も少しの歪みで割れ落ちるためやめる等、地震を通して素材に対する見方が変わる可能性は懸念される。
⇒応急危険度の判定をしていたところ、新しい瓦は全く落ちておらず、古い瓦が落ちている傾向が見られる。屋根が軽い方が耐震計算上は有利になるのは間違いないが、瓦であるから被害を受けるということでは決してないため、その辺りは注意が必要。復興まちづくりを進める上で、そのあたりの情報提供を住民にして、安心して景観への意識をもってもらえればよい。
- ・計画の言葉の使い方には考え方や哲学が必要であり、例えば、「おもい（想い・思い）」「いかす（活かす・生かす）」など言葉選びを慎重にしたい。

【ビジョン・テーマについて】

- ・パースを書いてくれてよくわかるようになったと思う。非常に難しいことだが、景観と住まいと暮らしによって形づくられるものをもっと説明する意義があるように思う。特に氷見ICアクセス周辺地区は、現況すでに取り組んでいることについて書いているだけのような印象を受けるので、もっと素敵なことを見つけて欲しい。
- ・対象としている国道415号沿道には2つの軸があり、それぞれの考え方があり、それぞれの地区をどういう地区にしていくか、景観まちづくりをどう進めていくのか、地区ごとの性格を表現できると分かりやすくなるのではないかと。